

# 平成24年度高鍋町事務事業評価表

## ◎事務事業の概要

事務事業名	特別展事業	基本目標	美術館の充実						
担当課(局)・係	社会教育課(美術館)	総務学芸係	記入者	中野恵一	評価者	三嶋俊宏	開始年度	H23	年度

## ◎事務事業の目的・内容

事業の目的	対象(誰を・何を)	町内外を問わず、広く県民に対して											
	意図・目的	地域の芸術文化の発信地としての役割を果たす											
事業の内容	内田正泰展「四季の詩 貼り絵原画の世界」を開催。につぼんの原風景を貼り絵で表現する内田正泰氏の作品展。本邦初公開の日本の美しい四季の情景を描いた作品72点を展示。観る人の郷愁を呼び起こす展覧会。												
主な支出項目	23年度決算額	3,219	千円	24年度予算額	6,421	千円	事業従事者数	H23	0.40	人	H24	0.40	人
	賃金	94	千円	財源内訳	国庫支出金		千円	23年度人件費	2,855				千円
	消耗品	48	千円		県支出金		千円	24年度人件費	2,858				千円
	印刷製本費	234	千円		地方債		千円	24年度予算額における一般財源の割合(H24)		100.0	%		
	広告料	1,019	千円		一般財源	6,421	千円	根拠法令・要綱等があれば記載してください					
	負担金	1,890	千円				千円						
						千円							
町の補助事業	<input checked="" type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 町単独補助 <input type="checkbox"/> 国県補助			補助事業名	-								
	補助交付団体	-		補助金要綱	-								
	23年度	補助額	-	千円	補助の形態	-	H24年度補助額	-	千円	終期	-	年度	
		団体の決算額	-	千円	H23年度までの見直しの状況・評価委員会での決定事項等								
		補助の割合	-	%									
繰越額		-	千円										

## ◎成果指標と活動指標

成果指標	成果指標名	何を狙い、どのような成果が得られたのか
	1 観覧者数	観覧者数の増加で、より多くの人に芸術に親しんでもらう。
	2 観覧料収入	観覧料収入の増加で、特別展に係るコストを相殺する。
	3 グッズ売上収入	観覧者のより一段の楽しみと売上向上
活動指標	活動指標名	どれほどの活動をしたのか、事業の手法、手順等を詳細に
	1 広報活動数	県内の美術館や各報道機関へチラシ・ポスター等の配布
	2 関連イベント開催数	展覧会に伴う講演会等の開催
	3 取材依頼数	新聞記事やテレビ等での報道依頼

## ◎達成状況

指標名	単位	22年度	23年度	24年度
		目標値	実績値	達成率
観覧者数	人	1,500	1,500	7,000
		1,535	1,533	
	%	102.3%	102.2%	
観覧料収入	円	750,000	750,000	4,200,000
		517,300	655,200	
	%	69.0%	87.4%	
グッズ売上収入	円	375,000	375,000	800,000
		79,949	93,217	
	%	21.3%	24.9%	
広報活動数	回	2	2	2
		2	2	
	%	100.0%	100.0%	
関連イベント開催数	回	2	2	1
		2	1	
	%	100.0%	50.0%	
取材依頼数	回	1	1	1
		1	1	
	%	100.0%	100.0%	

事務事業名	特別展事業	担当課(局)	社会教育課(美術館)
-------	-------	--------	------------

◎事務事業の評価

	担当者記入欄	評価する項目	点数
			自己評価
(必要性) 妥当性	平成11年11月の開館を記念して、毎年11月に開催する美術館最大の目玉となる展覧会である。この特別展により、美術館の存在を町内外はもとより県外へも強くアピールする必要がある。	◎目的からして町が行うべきか	2
		◎同様の事業を他課・他団体で行っていないか	2
		◎社会情勢(住民ニーズ)に適応しているか	2
		◎事業廃止による影響があるのか	2
有効性	町外からの観覧者が比較的多く、美術館のみならず、商店街や飲食店への経済波及効果があると思われる。観覧者・グッズ売上ともに前年並みで、収支は芳しくなかった。	◎目標に対して成果は得られているか	1
		◎すでに目的は達成されていないか	1
効率性	この数年、池田満寿夫と佐藤陽子や東ちずるなど著名な人物の展覧会であったが、本年は貼り絵作品で認知度も低いということでテレビCMを活用し幅広い層へアピールすることで、例年並みの動員であった。今後とも様々なメディアを通して情報発信することで、収支の改善に努めたい。	◎活動量の効果は実際に上がっているか	1
		◎費用対効果が十分に認められるか	0
協働性	ボランティア等を募り、監視や説明を行ってもらうことは可能である。	◎町民との協働の可能性はあるか(ボランティア・NPO等)	1
合計(最高18点)			12

※町補助をしている場合のみ記入

(公益性)		◎公益性が高いか ※公益性:不特定かつ多数の者の利益の増進に寄与していること	
		◎行政では対応できない部分を、補助事業がカバーしているか	
		◎町民の理解が得られる事業であるか	
合計(最高4点)			0
その他			

◎総合評価(今後の方向性を含む)

総合評価	◎担当者の方針に対する評価者としての所見  ◎統括者として、どのよう に事業を進めるべきと考 えているか、等	特別展は、美術館開館を記念して、毎年11月に開催する展覧会であるが、この特別展により、美術館の存在を町内外はもとより県外へも強くアピールする必要がある。町民の来館者が少ないようにあるので、常日頃から企画展等を通じ、町民の美術に関心が高まるよう運営努力を行いともに広報にも力を入れ、特別展の費用対効果があがるよう努力していく必要がある。	今後の方向性			
			事業の方向性	廃止	縮小	維持
					○	
			コスト			

◎事務事業評価委員の意見等

- ・美術館の運営の基本方針をもって、各種の事業に取り組んでいくべきである。予算の範囲内で事業実施できるよう知恵を出してほしい。
- ・特別展は高鍋町のPRにも貢献できるものであり、より多くの観覧者を呼び込むためには経費の拡充は止むを得ないと判断する。
- ・町内外から人を呼び込みリピーター客を確保するためにもインパクトのある特別展としてほしい。
- ・文化の発信という観点から予算を抑えるだけでなく、予算をかけて良いものを展示することも大事である。
- ・著名人の展覧会を開催するにあたっては、確実に入場者数を増やすように努めてほしい。
- ・コストが増える場合は収入も増えるよう努めてほしい。

◎今後の方向性

事務事業評価委員会	
判定	維持
外部評価委員会	
判定	